

「シャープペンシル」の再発明

平成 29 年度 竹園東 中学校 9 年 1 組 9 班

これまでの問題点（現在ある製品の課題など）

- ・シャープペンに芯を入れるとき、キャップと消しゴムをとらないと芯が入れない。
- ・消しゴムが小さいので、紛失しやすい。

再発明した製品の説明（要約）※図と文章で簡潔に説明すること！

キャップと消しゴムを一体化し、
一行程省くとともに
消しゴムの紛失を防ぐ。

これまでのシャープペンの
約 2 倍の大きさの
消しゴム。

キャップの上部をまわすと
消しゴムが出てくる。

参考にしたもの、（この再発明を考えるきっかけになった製品やアイデアをできるだけ具体的に書く！）

スティックのりを出すときの「まわすと出てくる」機構

従来のシャープンの問題点

キャップを取る



消しゴムを取る



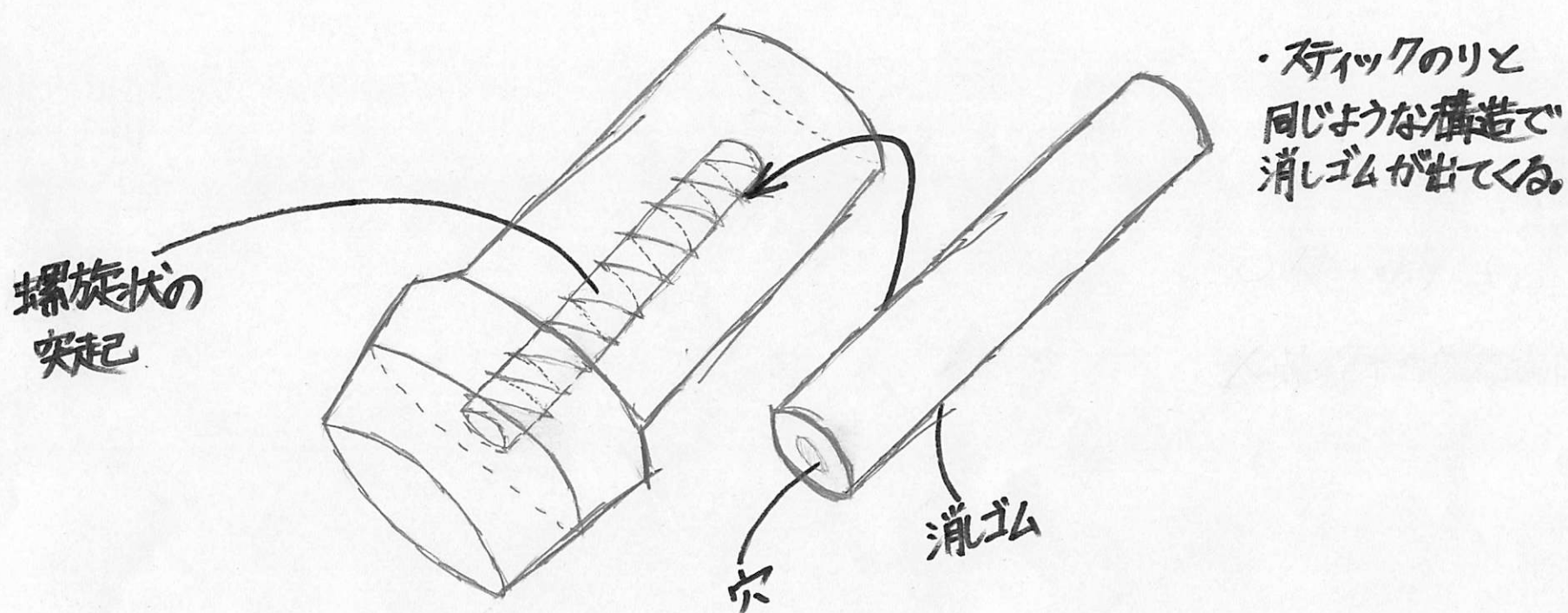
替え芯を入れる

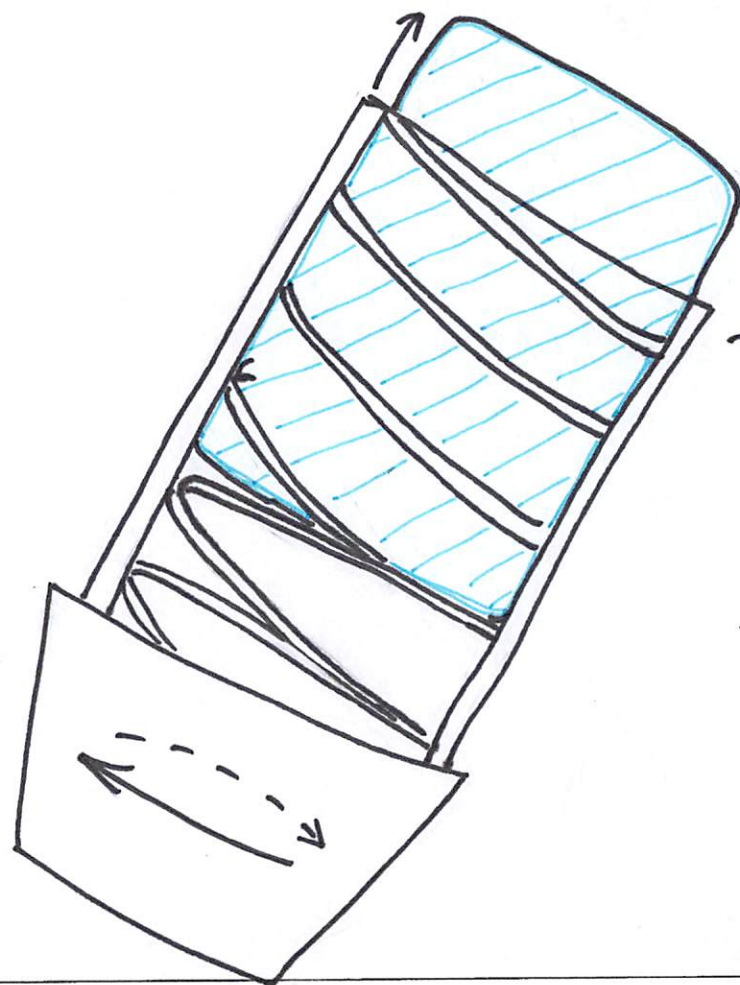
消しゴム
が失くす

シャープン本体

手間がかかる!!

キャップの構造案





・ステックのりと同じ構造にすると消しゴムの中心に穴が開くため消しゴムの「ケース」にらせん状の溝をつけて、端を回すと消しゴムが出るようになっている。

～改善されたところ～

- ・今までのシャーペンの約2倍の大きさのキャップと消しゴムたわになくしたくい。
- ・消しゴムのケースが大きいから持ちやすく、消しやすい。